

★各国代表より



韓国チーム役員
Heug Yong Kwon

学校の体育授業で偶然出会ったキンボールスポーツがきっかけで、日本で開かれる第1回パン・パシフィックカップに出場できるとは、選手誰一人思っていなかったでしょう。高校1年生5人に、兵役を終えて復学したばかりの大学生4人。このような大会の経験は彼らにとってまったく初めてでした。これから、キンボールスポーツ発祥の国カナダ、世界の強豪日本、そしてキンボールスポーツを始めてまもない中国と一緒に、「オムニキン」を叫びながら試合することになる。大会への怖さより心のトキメキの方が大きかったと思います。

選手たちは、まず初日のチャリティカップをみて、参加人数の多さと、小学生たちのプレーに驚いていました。小学生たちは、自分よりも倍程大きなボールをうまくコントロールしている。すでに体でキンボールスポーツを覚えている。日本のレベルが、なぜ長年世界のトップレベルに君臨できたか、その理由がわかったような気がしました。

そして、翌日からのパン・パシフィックカップ。世界の壁の厚さを自分の体で体験することができました。韓国チームのほとんどの選手は、キンボールスポーツを始めて半年くらいしかたっていません。世界の1位のカナダチームと2位の日本チームを前にして、韓国チームはまさに「井の中の蛙」でした。

しかし、今大会を通じて、選手たちには新たな目標が見えてきたようです。主将の白勝宇君は1954年スイスで開かれたサッカーワールドカップ時の韓国チームを思い出して「そのときの韓国サッカーチームもいまのわれわれのレベルと変わらなかったと思う。これからは、少なくとも週に2回は集まって練習しよう。1年頑張れば、来年はうまくなるはず」と今後の目標について話しました。

次回のパン・パシフィックカップでは、今年よりいい試合を期待したい。



中国チーム男子ヘッドコーチ
Quan Yongnan

2003年に、初めてキンボールスポーツに出会って今年で9年になります。長年、日本でキンボールスポーツを続けながら、いつかはきっと中国でも始めようと、心の中で思っていました。そして1年前から、日本キンボールスポーツ連盟、大阪キンボールスポーツ連盟、そしてスポーククラブの皆さまのご協力のもと、中国で私が勤めている延辺大学を中心にキンボールスポーツを始めるようになりました。

試合を見たことがないので、キンボールスポーツを単なる遊びと思っている学生が多かった。スポーツ学科にも選手協力を求めたが、誰一人来てくれませんでした。仕方なく、私が教えている日本語学部の学生を中心にキンボールスポーツを始めました。そのため今回の中国チームの選手ほとんどが日本語学部の学生です。

しかし、キンボールスポーツを遊びと思っていた学生たちも、世界トップレベルのカナダと日本選手たちのプレーを見て表情が一気に凍りつきました。「これがキンボールスポーツだ！」中国チームの練習しか見てなかった団長も、キンボールスポーツに魅了されました。

予想通り、実力の差は歴然でした。しかし、彼らの表情は生き生きとしていました。そこから、私にも中国でのキンボールスポーツの更なる普及の可能性が見えてきました。

今大会期間中、もうひとつ選手たちに深い印象を残したのは、小学生たちとの交流でした。実は、日本での大会を前に選手たちには、大会への不安もあっただろうけど、日本の国民が中国選手たちをどのように受け入れてくれるかの不安もあったと思います。しかし、小学生たちとの交流会から帰ってきた選手たちの最初の言葉「日本の小学生は本当にかわいい」。このひと言が、今までの不安が無用であったことを語ってくれました。

パン・パシフィックカップは、初めての試みとしてその意義は本当に大きい。大会の成功のために、ご尽力いただいたスタッフの皆さまに心からお礼を申し上げます。そして、第2回、第3回のパン・パシフィックカップを期待しています。そのために、私も全力を尽くしたい。



カナダ男子チームキャプテン
Marc-Andre Morin

2011年11月に日本で体験したことは、一生涯私の心に残る素晴らしいものでした。カナダチームの一員としてチャリティカップとパン・パシフィックカップに参加することができ大変光栄に思っています。まず、この2つの大会を開催するにあたってご尽力された関係者の方々にお礼を申し上げます。異なる文化や背景をもつ異国の方々とお会いでき嬉しく思っていますし、いろいろな国のキンボールスポーツ愛好者の方と試合ができとても楽しかった。大会にいた子どもたちやプレーヤー、父兄の方々を見て、日本のキンボールスポーツ界はこのような人々の情熱によって支えられているのだと感じました。

小学校を訪問し、生徒とともにキンボールスポーツを楽しんだことがいい思い出になっています。体育館に入るとたくさんの小学生が私たちを待っていました。黄色い声援が飛び交い、手を振る子、こちらに寄ってくる子などまるでロックスターになったように感じました。一緒にキンボールスポーツを楽しみ、翌日の試合に出場する生徒にはトリックやヒット方法などをジェスチャーや実技を交えて教えたのですが、彼らはきちんと理解していたようです。また、生徒を指導している先生方にはどのように教えたらレベルアップする方法を教え、今後の指導に役立ててもらいました。このような機会を与えてもらってわれわれカナダチームのメンバーは全員感謝しています。願わくばまた日本に帰ってきてみなさんにお会いしたいと思っています。